

2025年度 学校法人 三幸学園 大阪こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 片淵 卓也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 河原 始

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 通信制高校出身者増加に伴う学生支援の充実

毎日登校や人間関係に不安を抱きやすい学生が多くなっている状況を鑑み、内部進学生のみを対象入学前フォローアップ会を開催。他学生も入学前保護者説明会や新入生オリエンテーションも実施しているが、こちらは不安解消、歓迎ムードの伝播に注力したものの。

結果、参加者全員が満足度満点を付ける結果を得られ、かつ、不安軽減の実感値は全員が軽減したとの実感値を付けている成果が得られた。

(2) 教育活動、社会貢献・地域貢献について

地域の園と連携し園児をオープンキャンパスに月1回の頻度招いたり、学生が園に赴き授業で得た技術を複数回提供したりするなど昨年度以上に現場と連携し学びの質向上、地域・社会貢献することができた。

また、関東にある同法人の保育園と連携し、オンライン上にて園児と学生とが交流する機会を月1回の頻度で実現。2月には、園児たちにとって画面の向こうで見ていた学生が実際に目の前に現れる演出を行い、園児に対する保育活動と学生の学習意欲の向上につなげることができた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校が掲げる理念・育成人材像について生徒達・保護者への周知は行っているが、理解浸透には引き続き課題が残った。

② 今後の改善方策

- ・2026年度より、同分野の姉妹校全体で教育目標及び育成人材像をより周知しやすい内容に改善している。例年以上に授業や行事のタイミングを活用し周知・浸透を図る。
- ・講師に対しても全体会議等の場で学校側が伝えたいことを共有しながら、認識統一を行う。

③ 特記事項

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化を促進しようとする意識は上がっており、また活用率も上昇している。しかし、システムの理解度に偏りがあり、また全体の活用度も更に高い水準まで上げていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学園から発信されているマニュアルの活用、および部門の状況に合わせてブラッシュアップし誰でも活用できるよ

う理解を深めていく。全体、場合によっては個別のレクチャー会も検討。
 ・姉妹校の活用例などを積極的に取り入れ、活用度を高めていく。

③ 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・学校としての資質向上のための研修については全体会議等での機会を設けている部分もあるが、教職員によって実施回数に差がある。
 ・研修体系として、インプット機会は用意しているがアウトプット機会は十分に取れていない。

② 今後の改善方策

・より先端的な知識・技能等を修得するための研修について、全体会議などの全体を対象にした研修も例年同様

実施しながら、個々課題に沿った研修受講を面談等の個別アプローチで促す。

- ・研修の後どのように実践していくかまで職員間・学年間で検討・実践できるよう、研修後のアウトプット機会を仕組化し設ける。具体的には(1)の改善方策と同様に学年や関連教科毎の機会を仕組化していく。

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・就職率及び資格取得率の向上を図る取組みは行っているが、成果が出し切れていない。
- ・1 学年の退学率を中心により退学率の低減が求められる。

② 今後の改善方策

- ・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努める。
特に実習科目を起因とした資格(免許)未取得者が多いため、本実習の前に現場を経験する機会を増やしたり実習前後のフォローに注力したい。
- ・2025 年度は人間関係を起因とする 1 学年の退学が多かった。学生の悩みを早期に適切にキャッチできるよう担任以外の教員(副担任・授業講師など)との連携を強化したい。

③ 特記事項

なし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4

課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生 LINE 等を活用し、定期的に支援体制の存在を発信したり学校行事に卒業生を招待する等支援強化に取り組んでいる一方で認知度や支援実績にはまだ課題が残る。
- ・2024 年度より高専接続強化のため入学前に姉妹高校卒業生と次年度入学生が交流する機会を設ける等仕組化に力を入れており、2025 年度は姉妹高校卒業生の学生生活情報を卒業高校に月 1 で報告。高校の元担任とも情報共有を行いながら学生指導を行った。

② 今後の改善方策

- ・卒業生 LINE の定期的かつ卒業生にとって有効的な情報発信は引き続き意識しつつ、上記で触れた卒業生が母校に戻る機会の創出も模索していく。
そのために卒業生交流会においても参加率を向上すべく施策を行う。
- ・昨年度、姉妹高校との連携について仕組み作りを行ったことから 26 年度はより連携の頻度や質を高め、退学率低減や単位取得率向上という具体的成果にもこだわり施策を行っていく。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・教育上必要な設備は整備されており、加えて 2025 年度は学生のニーズに応えクールダウンスペースを全館に設置。一方、利用にあたって使用ルールについては引き続き検討の余地がある。
- ・海外研修を 2025 年度より国内研修に変更した。

② 今後の改善方策

- ・設備の確保に留まらず、本当に利用が必要な学生が適切なタイミングで使用できるよう利用ルールの整備を行っていく。
- ・国内研修に関して姉妹校全体で参加希望者が多かったことから、25年度送り出しは叶わなかったが引き続き需要に基づき希望者が参加できる体制を整備していく。

③ 特記事項

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・合理的配慮が必要な入学希望者の増加。

② 今後の改善方策

- ・具体的な学習形態や国家資格取得に向けて求められる能力等を伝えながら、入学希望者に必要な支援を共に検討していく。

③ 特記事項

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第2.0版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・26年度より委託訓練生の受け入れを開始している。
- ・学校のスタジオを地域の小規模保育園に貸し出し園行事に活用いただいた。

② 今後の改善方策

- ・地域/業界連携強化のため、引き続き近隣園との交流機会を検討・実施していきたい。

③ 特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育士の働き手不足を受けて養成校としての使命が年々大きくなっていると感じる。一人でも多く輩出し、長く続けてもらうためにも退学率低減に引き続き取り組んでいく。

以上